

令和6年第3回琴浦大山警察署協議会開催状況

開催日時	令和6年11月25日(月)午後1時30分から午後3時10分まで	
開催場所	琴浦大山警察署大山寺駐在所、元谷避難小屋付近	
出席者	委員 (定数6人)	永岡会長、山根副会長、清水委員、榎原委員、井上委員 以上5人
	警察	山本署長、中嶋管理官、横山会計課長、井上地域課長、警務課員 以上5人
議 事 概 要		
<p>1 挨拶 会長及び警察署長が挨拶を行った。</p> <p>2 管内治安概況等説明 管理官及び地域課長が、令和6年10月末現在における管内の治安概況について説明した。</p> <p>委員からの主な意見、質疑等とそれに対する警察の回答は次のとおりであった。</p> <p>委員：昨年と同様に今年も山岳遭難件数は増加傾向ということであるが、その理由はあるか。</p> <p>警察：一般的に言われていることだが、コロナ禍の影響によりアウトドアブームが到来し、登山も大衆化した。登山者が増加する中で、知識や経験が不足している軽装備登山者や準備、体力が不足している、いわゆる弾丸登山が急増したことがその原因の一つと考えられる。また、猛暑等の気象状況も影響しているものと考えられる。</p> <p>委員：実際に外国人の登山者は多いのか。どこの国が多いのか。</p> <p>警察：肌感覚ではあるが、アジア系の登山者を多く見かける。欧米の方も含め、全体的に外国人の登山者が増加していると感じている。</p> <p>委員：先日、交通事故が発生したが、発生現場の安全対策はいかがか。</p> <p>警察：事故現場は、当事者双方ともに周囲が見にくい構造となっており、今後も、道路管理者と連携して必要な安全対策を検討していく。また、今回の事故当事者は観光帰りであったことを踏まえ、観光客向けのチラシ作成を検討している。</p> <p>委員：山岳遭難対策として、オリジナルの焼き印を入れたどら焼きを作成されたとのことだが、その経緯は、どのようなものか。</p> <p>委員：遭難防止にかかる広報啓発活動については、創意工夫を凝らしながら、取り組んでいるところであり、このたびの焼き印のデザインは署員が考案し、大山遭難防止協会の予算で作成したものである。大山での警察の活動に対する注目度も上がってきているところであり、今後も各方面との協力関係の構築や賛同を得ながら、各種活動を推進していく。</p> <p>委員：キノコ狩りの時期であるが、道迷いなどの事例はあるのか。</p> <p>警察：それほど件数が多いわけではないが、毎年、数件は発生している。特に採取目的の茸の種類によっては、採取のポイントを誰にも知らせていないことが多く、道迷いによる遭難事案が発生した際の捜索活動上、極めて手がかりが乏しいことが多い。また、茸探しで地面ばかりを見ながら歩くこ</p>		

とも多いため、道迷いに陥る危険性が高く、時間経過や夜間の寒さなどから活動低下に至り、命の危険にさらされることも懸念される。

現在は、登山アプリが普及し、活用されている方も多いが、携帯電話機のGPS機能を使い続けると電池残量低下に陥り、救助要請時に使用が不可能となることが懸念されるため、山岳遭難防止にかかる広報啓発活動時においては、モバイルバッテリーの携行についても呼び掛けているところである。

3 冬期における山岳救助活動

大山の元谷避難小屋付近において、地域課長が冬山遭難救助で使用する装備品、通報を受けてから要救助者救助までの一般的な流れ、対策としての訓練状況を説明するとともに、本年3月に発生した大山町大山七合沢付近における雪崩遭難事案における発生現場、警察による救助活動の概要等についての説明を実施した。

4 その他

次回協議会は、令和7年2月頃に開催する予定である。